

# 特別寄稿

## 北海道産業パワーアッププログラム

北海道経済産業局 総務企画部企画課

### はじめに

最近の北海道経済は、全体としては緩やかに改善していますが、少子高齢化と人口減少社会の到来、グローバル化と国際競争の激化など厳しい時代環境の下で、北海道が新たな発展の途を歩むためには、民間主導経済への構造転換など地域経済の活性化を進めていくことが必要です。

経済産業省は、18年6月、国際産業戦略と地域活性化戦略を柱とした「新経済成長戦略」を策定・公表しました。同戦略においては、製造業とサービス産業を経済成長の「双発エンジン」として位置付けるとともに、サービス産業の生産性を向上させていくことが必要とされています。

一方、北海道経済産業局は、平成16年度から「モノ作り産業活性化」、「地域ブランド形成支援」、「観

光産業活性化」の3つをパッケージ化した「北海道産業パワーアッププログラム」に取り組んでいます。同プログラムは、「新経済成長戦略」の地域活性化戦略の具体的なアクションプランとしても位置付けられるものです。

この度、平成18年度の取り組みを次のとおり取りまとめました。

### 【18年度の取り組みの特徴】

- ◆動きが活発化している自動車関連分野とのビジネス化を志向する道内企業の取り組みを重視。
- ◆地域経営的視点からの広域・多分野連携によるこれまでにない価値（「しん価値<sup>※</sup>創造」）の創出支援と検証を実施。



※しん価値：新規、心、信頼、進歩、身、真実、芯、殷賑、親愛、振興、深化、伸展等、各地域、各分野の取り組みにより求める「しん」該当する「しん」が異なる。

**平成18年度『モノ作り産業活性化プログラム』  
～企業連携促進と産業人材育成で、モノ作り  
産業活性化を目指す～**

**<プログラムのねらい>**

ニッチトップ企業で代表される競争力ある企業を創出し、企業間連携等の多様な連携を推進し、道内モノ作り産業の活性化を目指します。

**<取り組み方針>**

自社の競争力を高めることに意欲的なモノ作り企業を対象として、売れるモノ作りを重視した技術開発や販路開拓等のコーディネートを始め、企業間連携による新製品の事業化、モノ作り現場での人材育成事業を重点的に実施します。

また、企業に出向き、経営者に意見を聞き、現場を見て、そこから課題を見つけ、企業と一緒に解決していく現場主義の実践とともに、幅広い人的ネットワークの形成と積極的な情報発信により、意欲的な企業の取り組みを支援するための基盤づくりを行います。これらの取り組みにより、「モノ作り産業活性化」に向けたムーブメントを喚起していきます。

特に、動きが活発化している自動車関連分野とのビジネス化を志向する道内企業の取り組みを重視して参ります。

**<数値目標の設定>**

「モノ作り産業活性化プログラム」の実施にあたり、その実効性を高めるため、数値目標の設定を図っています。

- 1 意欲的モノ作り企業100社の売上  
年伸び率5%
- 2 新連携支援制度による支援件数  
全国の新連携計画認定件数の10%
- 3 技術開発助成事業のビジネス化支援  
事業化率50%

**<具体的取り組み>**

**1 ビジネス化への支援**

**～徹底した顧客ニーズへの対応～**

デザインを設計段階から取り入れた商品の開発及び販路拡大に向けた支援を行うほか、国の技術開発助成制度を利用したプロジェクトのビジネス化のための課題解決への支援、また、販路開拓のための新商品PR、異業種とのマッチング、企業間連携の促進等により、モノ作り企業の新商品開発のビジネス化を支援します。

併せて、新商品開発研究会「北海道テクノロジー・ネット・サナンス研究会」の取り組みをモデル事業として位置づけ、支援します。



## 2 技術開発への支援

### ～強みを活かす新商品開発～

研究開発シーズの事業化を促進するため、研究開発助成制度の活用促進を図るほか、各種セミナーによる特許情報の活用、特許化の促進、金融機関協働による産学官連携システムの構築等により、モノ作り企業の技術開発を支援します。

また、道内の基盤技術（めっき、鋳造、金属プレス、金型等）の振興を図るため、本年6月施行した「中小企業ものづくり基盤技術の高度化に関する法律」に基づく施策をPRし、動きが活発化している自動車関連分野など実効性のある中小企業の研究開発プロジェクトについて同法施策を活用し、支援します。

## 3 基盤強化への支援

### ～継続すべき人の育成と改善活動～

産学連携による、モノ作り製造現場に求められる人材の育成事業と、受発注企業間の連携促進に資する事業を実施することにより、モノ作り企業の基盤強化を支援します。

また、苫小牧高専を核とした地域産学官連携による自動車関連産業のための中小企業人材育成など高専活用人材育成事業を実施します。

## 4 ムーブメントの喚起

### ～目指せニッチトップ！～

「現場主義」の実践として、企業訪問等による「意

欲的な企業」の発掘をはじめ、企業、大学、公設試、自治体等とのネットワーク形成を促進するほか、経営者のマインド転換や自発的取り組みを促すために積極的な情報発信を実施します。

## 平成18年度『地域ブランド形成支援プログラム』

### ～魅力を引き出し、モノやサービスをブランド化し、大きな波及へ～

#### <プログラムのねらい>

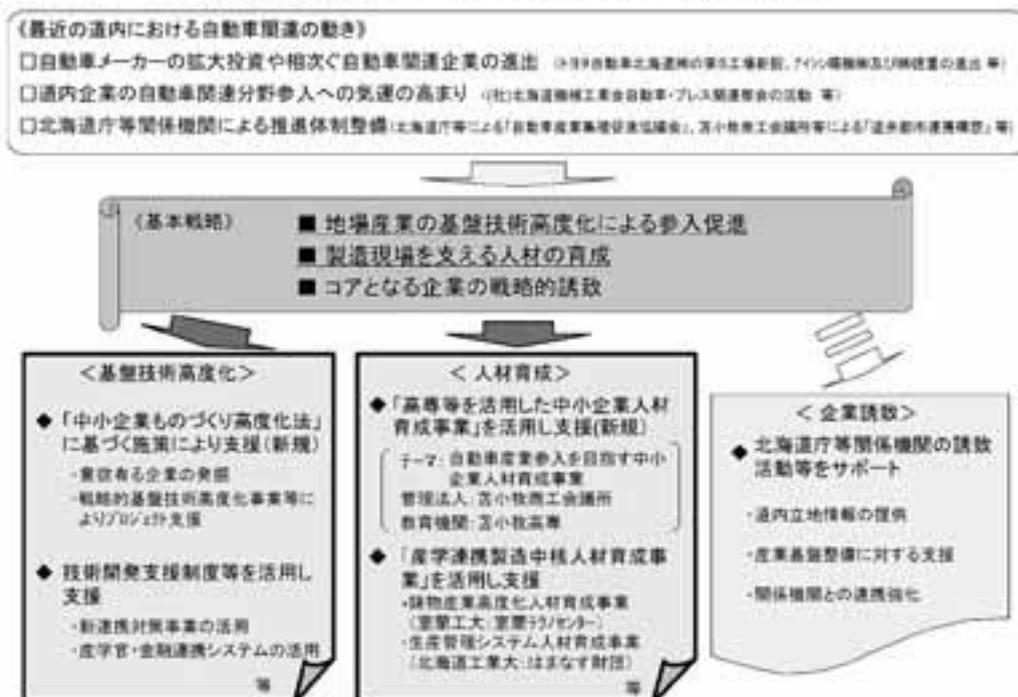
地域と協働しながら地域資源を見つめ直して、地域に根ざした魅力を引き出しながら効果的に活用し、市場との対話を重ね地域の商品・サービスを磨き、全国・世界に通用する優れた地域ブランドの形成と地域活性化の実現を目指します。この取り組みを通じて、少子高齢化時代でも発展可能な地域総合力の強化に役立つ広域・多分野連携の仕組みづくりや、地域の商品・サービスの高付加価値化と物語性（地域の正当性）の向上を促進します。

#### <取り組み方針>

地域の気運づくり、仕組み・コアづくりを促進するため、引き続き地域と協働しながら各地の取り組みを地元のニーズを踏まえて機動的に支援するとともに、他機関とも連携して、地域の取り組み状況に合わせたフォーラム等を開催します。

意欲的な地域での実践（モデル事業）について

## 自動車産業活性化へ向けた取り組み



は、地域の課題解決に向けた取組みに、その段階に応じた効果的で適切な施策を投入して支援いたします。また、各地域の取組みの中核となる委員会等に積極的に参画し、その進捗に合わせて各地の目標達成に向けた取組みに役立つ斡旋、紹介、助言等の支援を行います。

また、今後、これらの施策投入の成果を検証し、効率的な施策のパッケージ化の検討に反映させるほか、地域経営的視点からの広域・多分野連携によるこれまでにない価値（「しん価値創造」）の創出支援と検証を実施して参ります。

＜具体的取組み＞

1 地域ブランド形成のムーブメントの喚起  
～気運づくり～

北海道内における地域ブランド形成に向けたムーブメントを喚起するため、地域のコンセンサス形成の促進、地域ブランドの意義、市場との対話、実践ノウハウの習得やステージアップ等を目的としたフォーラム等を開催するとともに、地域と協働しながら地域ブランド形成への普及・啓発活動を展開します。

2 地域の取組みを加速する支援  
～仕組みづくり・コアづくり～

地域におけるブランド形成に向けた仕組みづく

り・コアづくりを加速するために、地域ブランド形成に繋がる戦略や中核組織づくり、新たな商品・サービスづくり、市場情報の収集や販路開拓、取組を支える人材育成事業に対し、中小企業施策等を活用した多様な支援を展開します。

3 意欲的な地域での実践

～成功モデルの創出・検証～

実践モデルとして、意欲的な地域での取組みを支援します。各種調査事業や中小企業施策等を活用した重点的支援を行うとともに、各地域の委員会への参画等地域と連携して、取組みの方向性、ネットワークづくり等について、進捗に合わせた多様な支援を展開し成功モデルの創出を目指します。また、その検証を進め有効な支援方策等を抽出し、他地域の支援に反映させます。

4 「しん価値創造」に向けて

今まで観光との関連性が薄かったサービス業等が、観光客を新たな顧客層として捉え、広域・多分野連携でこれまでにない価値（「しん価値創造」）を作り、それを地域ブランド化して、観光客に提供しようとする新たな取組みが生まれつつあります。

当局では、道内の地域資源を効果的に活用し、より大きな経済波及効果が期待できる道内事業者



の広域・多分野連携による独特のサービス等の地域ブランド化と、ブランド化のブラッシュアップに必要な厳しい消費者の声を提供し、顧客確保にもなる観光分野の事業者との協働で、売れ続けるサービス等の成立が可能であり、大きな可能性があるものと考えています。

そのため本年度は、当省が策定した「新経済成長戦略」において、新たな「観光のコンテンツの具体例」としても提示された以下の3つの取り組みを、明確な対立軸、分かり易い物語性という優位性と、発展可能性を持つモデル事業として支援し、施策の有効性を検証します。

- (1) 「スギ花粉待避ツアー」などのブランド化（イムノリゾート構想推進事業。18年度サービス産業創出支援事業にて採択。上士幌町周辺）  
スギ花粉のない上士幌町周辺 vs スギ花粉のある本州
- (2) 「北海道ホワイト・エステ（仮称）」のブランド化と観光産業等との協働（全道各地）全国初のブランド化取組  
雪イメージの北海道（白）vs 南洋イメージの沖縄（小麦色）
- (3) ルール管理を目指す「渚滑川スポーツ・フィッシング」のブランド化と観光産業等との協働（渚滑川周辺）  
全国初・全国最長のC & R区間の渚滑川 vs 例のない本州

上記（2）及び（3）は、地域産業活性化計画調査のモデル例として支援、検証。

## 平成18年度『観光産業活性化プログラム』

### ～地域経営視点の広域・多分野連携で、観光ビジネスの幅拡大と発展を！～

#### <プログラムの狙い>

情報入手の多様化が進む観光客の集客強化には、単一行政区域の視点よりも、地域全体として豊富で優れた選択肢を一体的に提供し、選ばれることが重要です。しかし、単一の自治体や事業者の対応では限界があります。そこで更なる観光発展のために、行政区域を超えた地域経営の視点を導入し、選ぶ側の観光客の視点に立って（市場との対話）、広域・多分野連携を進め、より充実した選択肢を提供できるようにすることが必要で

す。そのため当局では、多様な選択肢の実現に向けた先進事例や手法等を提示しつつ、地域や事業者の自主的取り組みを状況に応じて支援することで、観光ビジネスの幅の拡大を目指します。

#### <取り組み方針>

地域の気運づくりを促進するため、引き続き地域と協働しながら、各地の取り組みを地元のニーズに応じて支援します。また、当局の観光産業の経済効果調査を題材に分かり易い啓発教材にまとめ、観光に対する認識向上や広く道民のホスピタリティの向上に役立てることを検討するほか、他機関とも連携して、地域の取り組み状況に合わせたフォーラム等を開催します。

仕組みづくり、コアづくりを促進するため、従来の観光事業者だけでなく、広域・多分野連携の相手先となるモノづくり、IT、サービス、農林水産、スポーツ等の事業者等も新たな観光コンテンツ作成、観光ビジネスの担い手と考え、支援を強化します。また、それらの取り組みを支える高度な観光経営人材の育成を支援します。

今後、これらの施策投入の成果を検証し、効率的な施策のパッケージ化の検討に反映させるほか、地域経営的視点からの広域・多分野連携によるこれまでにない価値（「しん価値創造」）の創出支援によるメニュー拡大と検証を実施します。

#### <具体的取り組み>

##### 1 観光分野における新たな取り組みのムーブメント喚起 ～気運づくり～

北海道の観光分野における新たな取り組みのムーブメントを喚起するため、地域における観光産業の波及効果に関する認識向上、地域のコンセンサス形成の促進、地域一丸となったホスピタリティ向上等の観光ビジネスにおける環境整備に向けた取り組みや、地域、事業者との協働による新たな取り組みの発掘と情報発信を行います。

##### 2 地域、分野の取り組みを加速する支援 ～仕組みづくり・コアづくり～

道内の観光ビジネスにおいて、それぞれの地域、分野で行われている先進的な取り組みを加速し、当該事業を一層発展させ観光ビジネスの幅を拡大するために、戦略や中核組織づくり、新たな観光商品・サービスづくり等をこれまでに蓄積したネットワークや施策の活用を通じ、積極的に支援するとともに、高度経営人材の育成に注力します。

### 3 意欲的な地域、分野での実践

#### ～ 成功モデルの創出・検証 ～

実践モデル事業をはじめとする、意欲的な地域、分野での取組みを支援します。各種調査事業や中小企業施策等を活用した重点的支援を行うとともに、地域との協働を通じて、今後の取組みの方向性、事業化等について、その進捗に合わせた助言・コーディネートを行い、成功モデル創出に向けた支援を実施します。また、それらの取組みの情報発信や検証を進め、より有効な支援方策等を抽出し、他の地域、分野での支援に反映させていきます。

### 4 「しん価値創造」に向けて

現在、大手の旅行事業者を中心に旅行業界では、07年問題やロングステイにおける新たな観光需要に如何に対応するかが、喫緊の課題となっています。特に、ロングステイでは、消費者は海外よりも国内で経験してからとの声が多く、その中でも北海道と沖縄は重要なターゲットとなっています。これに応えるには、それら観光客にこれまでにない長い滞在期間の中で、満足度が高く、新鮮度の高い充実したメニュー、多様な選択肢を提供することが、非常に重要になります。

そこで、当局では道内での優れた観光メニューづくりに、地域ブランド形成の考え方や手法、さらにはこれまでプレイヤーとしてあまり考えられていなかった分野の事業者等を加えた取組み方

策も有効だと考えています。

そのため、観光とブランドの利点を相互活用した（「しん価値創造」）、以下の3つの市場対話型多分野連携モデル事業（再掲）を支援し、施策の有効性を検証します。

- (1) 「スギ花粉待避ツアー」などのブランド化
- (2) 「北海道ホワイト・エステ（仮称）」のブランド化と観光産業等との協働
- (3) ルール管理を目指す「渚滑川スポーツ・フィッシング」のブランド化と観光産業等との協働

### 最後に

北海道経済産業局では、地域経済・産業を支える既存産業をもう一段飛躍（パワーアップ）させ、地域への経済波及効果が期待できる具体的な取組みとして「北海道産業パワーアッププログラム」を策定しましたが、より効果的なプログラムの推進に努めてまいります。今後とも、本プログラムの展開に向けて、忌憚のないご意見、格段のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

北海道産業パワーアッププログラム  
～平成18年度の取組み～

（北海道経済産業局ホームページ内）

[http://www.hkd.meti.go.jp/hoksp/h\\_powerup\\_program2/index.htm](http://www.hkd.meti.go.jp/hoksp/h_powerup_program2/index.htm)

